

事業年度	毎年4月1日から翌年3月31日まで
定時株主総会	毎年6月
基準日	定時株主総会 3月31日 期末配当金 3月31日 中間配当金 9月30日(当事業年度の中間配当の予定はございません)
公告の方法	電子公告により、当社ホームページ(http://www.fujipream.co.jp/)に掲載いたします。 ただし、事故その他やむを得ない事由によって電子公告によることができない場合には、日本経済新聞に掲載いたします。
株主名簿管理人 特別口座の口座管理機関	三菱UFJ信託銀行株式会社
同連絡先	三菱UFJ信託銀行株式会社 大阪証券代行部 〒541-8502 大阪市中央区伏見町三丁目6番3号 電話0120-094-777(通話料無料)

ご注意

- 1 株主様の住所変更、買取請求、その他各種手続きにつきましては、原則、口座を開設されている口座管理機関(証券会社等)で承ることとなっております。口座を開設されている証券会社等にお問合せください。株主名簿管理人(三菱UFJ信託銀行)ではお取扱いできませんのでご注意ください。
- 2 特別口座に記録された株式に関する各種手続きにつきましては、三菱UFJ信託銀行が口座管理機関となっておりますので上記特別口座の口座管理機関(三菱UFJ信託銀行)にお問合せください。なお、三菱UFJ信託銀行全国本支店でもお取次ぎいたします。
- 3 未受領の配当金につきましては、三菱UFJ信託銀行本支店でお支払いいたします。

フジプレアムと社会を結ぶ情報誌

PRE【プレ】

フジプレアムの「プレ」は「先駆ける」、「アム」は「存在」という意味が込められています。この「プレ」をタイトルにした株主通信は、株主の皆様へ適切な経営情報を先駆けてお届けし、フジプレアムと社会との関わりを分かりやすくお伝えするとともに、当社が誇る技術や将来性などをご紹介してまいります。



特集

製造プロセスの改革と製品サービスの向上を見据えて
製造分野におけるIoT化とAi活用

フジプレミアムグループ経営理念 ～中期経営ビジョンの体系～



「人」は「財」なり、「財」は「人」作りなり
 創意、継続は大いなる「財」なり
 自然は大いなる「恵」なり。
 全てに対して大いなる「感謝」

存在意義

「共存・共生・共産」の理念で、ステークホルダーを始め、持続可能な住みよい社会の発展に貢献する

経営の姿勢

二つとない(不二)時代に先駆けて(pre)存在し(am)進化し続ける企業を目指す

事業行動の指針

「誠意」と「不可能への挑戦」の精神をスローガンに未来を切り開く事業を手がける

ステークホルダーに対する姿勢 ～ステークホルダーとの関係性を理解する～

一人一人の尊厳と価値が認められ、
 従業員が家族に対する責任を
 果たすことができる会社

- **地域社会**
地域社会の発展、健康、教育の改善に寄与する活動に参画し、地元で愛される会社
- **株主様**
企業価値を持続的に向上できる会社
- **お客様**
共に新領域に挑む共創関係となれる会社



光都工場

光都PV工場

100年先の暮らしを照らすため、自らに与えられた使命を果たす。
 「共存・共生・共産」の理念で、住みよい社会づくりを目指します。

精密貼合市場の グローバルリーディングカンパニーを目指す。

株主、投資家の皆様には、益々のご清栄のこととお慶び申し上げます。
 平素よりフジプレミアムグループの事業につきまして格別のご理解とご支援を賜り、厚く御礼申し上げます。ここに第41期(令和5年3月期)第2四半期決算報告書をお届けするにあたり、ご挨拶申し上げます。

当社を取巻くビジネス環境は、新型コロナウイルス感染症対策が進むことにより、経済社会活動も落ち着きを取り戻し始め、段階的に経済活動が再開しております。一方、ウクライナ情勢の長期化による原材料価格の上昇、中国のゼロコロナ政策による経済活動抑制に起因する供給の制約あるいは物流の混乱、円安の進行等の要因による物価上昇懸念等、依然として予断を許さない状況が続いております。

このような環境の中、当社グループの主力事業である精密貼合及び高機能複合材部門におきましては、自動車業界及びエレクトロニクス業界でのディスプレイ化、タッチパネル化ニーズを取り込み、当社の精密貼合技術を活用した加工ビジネスを拡大してまいりました。

一方、環境住空間及びエンジニアリング部門におきましては、太陽光発電事業は引き続きOEM供給を中心とした生産を実施、エンジニアリング部門では、機械製造販売子会社のプレマテック株式会社との協業により経営基盤の強化を行っております。

今後、当社といたしましては、変革のスピードを加速させ、グローバルリーディングカンパニーを目指してまいります。

株主の皆様には、今後とも変わらぬご支援、ご鞭撻を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

代表取締役社長 松本倫長



近年、医療や教育、マーケティングなど様々な現場で導入されているAi。
国内外の製造業の現場においてもIoTを用いた革新が急速に進んでいます。
そうした背景の下、独自の技術で付加価値を創造する企業、フジプレアムでは、
どのようにAiを活用しているのか。
製造分野の中軸を担うキーパーソンが集い、Ai活用の現状やビジョンについて語りました。



2つの軸で考えるフジプレアムのIoT化。

少子高齢化が進む日本では、製造業においても労働力不足や後継者不在が大きな問題となっています。そうした課題をふまえ、フジプレアムではIoT化とAiの活用を積極的に推進しています。

フジプレアムのIoT化には大きく2つの軸があります。まずは、製造現場における課題解決を目的とした取り組み、社内に向け

た「製造プロセスの改革」。もう一方は、さらなる企業成長につなげるための取り組み、社外に向けた「製品サービスの向上」です。

フジプレアムでは、この内と外の両輪を円滑に回していかなければ企業価値の向上は難しいと考え、総合的な視点でIoTの導入に取り組んでいます。

～製造プロセスの改革と製品サービスの向上を見据えて～

いち早く検討を始めた製造現場へのAi導入。

2005年、フジプレアムでは業界でもいち早くIoT化を検討し始めました。その折にまず試みたのが検査業務の自動化です。検査業務の中で、良品か不良品かを判断するにあたっては微細な見極めが求められます。従来、人の目に頼っていたその業務を自動検査装置の導入により補うことができればという狙いでしたが、結局は導入を見送ることになりました。当時の技術では満足できる自動検査装置の開発が難しかったと言えます。

あれから17年の時を経た今、再度挑戦しようと検査業務の自動化に取り組んでいます。当時と違い、不良品を認識するためのカメラの精度や感度が向上しており、最終的に良品か否かを判断する部分にAiを活用した画像分析を取り込むことで、導入への道筋が見えてきています。これまで蓄積してきたデータと学習能



代表取締役社長 松本倫長

力を備えたプログラムにより、試験では実用に足る評価結果が出ています。Ai画像分析による自動検査システムを活用できれば、製造工程における省人化と生産性の向上につながり、当社にとっても大きな成果が得られると思います。

営業現場と生産現場、IoTでできること。

IoT化は、営業、マーケティングにおける情報の収集と蓄積という側面でも十分に活用できます。現状、顧客に関するデータは各営業が抱えています。そうしたデータをデジタル化して集約できれば、情報の均一化が果たされ、顧客要求に対して迅速な対応が可能となります。また案件を「見える化」して管理・共有することで、作業の効率化にもつながります。

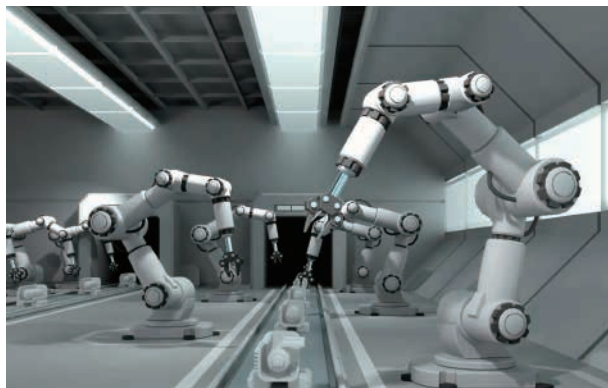
また、生産の現場では、IoT化によりスムーズな生産管理とペーパーレス化が可能となります。さらに、製造に関するあらゆるデータをデジタル化してAiで分析・解析することで、歩留まり率を上げるための要因を突き止めて改善することも可能となります。他にも、人の配置をデータベース化することで最適な組み合わせができるなど、幅広い場面での活用が期待されます。



執行役員
メカトロクス事業部長兼
玉田達哉
プレマテック(株)取締役社長

Ai導入が開発スピードを飛躍的に向上させる。

研究開発の現場では既にAi導入のトライアルを進めています。これまでになかった部材の取り扱いや、新しい作業に取り組むことが多い研究開発では、どのようなプロセスでやっていくか、失敗を繰り返すことで最適化を図ります。その際の判断に必要なものが、過去の事例や経験です。そうしたデータを収集してAiで分析できれば、開発スピードは飛躍的に向上し、競争力の強化にもつながります。今後は、Aiによる分析の精度を高めるために、どれだけ良質なデータを収集できるかが鍵となります。膨大なデータから本当に必要なデータを選ぶことが出来れば、私たちがこれまで蓄積してきたデータの価値はより高まると考えます。



IoT化とAi導入における課題。

このようにIoT化とAiの活用は様々な可能性を秘めています。フジプレアムのように振幅の大きい技術を提供する会社ではコアなプロセスを丸ごと自動化するのは難しいため、生産工程の何をAiに任せて自動化し、どの部分を人の手でやるのかを見極めることが重要です。

そのためにはそもそも「課題」を認識していなければいけません。IoT化により様々なデータや情報が表に出てきますが、情報量も膨大となって理解する難易度は高くなり、ともすれば意思決定の精度も下がってしまいます。IoT化とAiの活用を進めていく中で何を目的とするのか、またAiが導き出したデータから何を読み取るのがこれからの大きな課題と言えるでしょう。



執行役員
生産本部 副本部長兼
ファイナンス事業部長
安田 康良



研究開発室 室長
池田 智宏



研究開発室 課長
中山 陽介

～製造プロセスの改革と製品サービスの向上を見据えて～



技術開発部 部長
鈴木 太津葵



技術開発部 部長
玉田 規哲



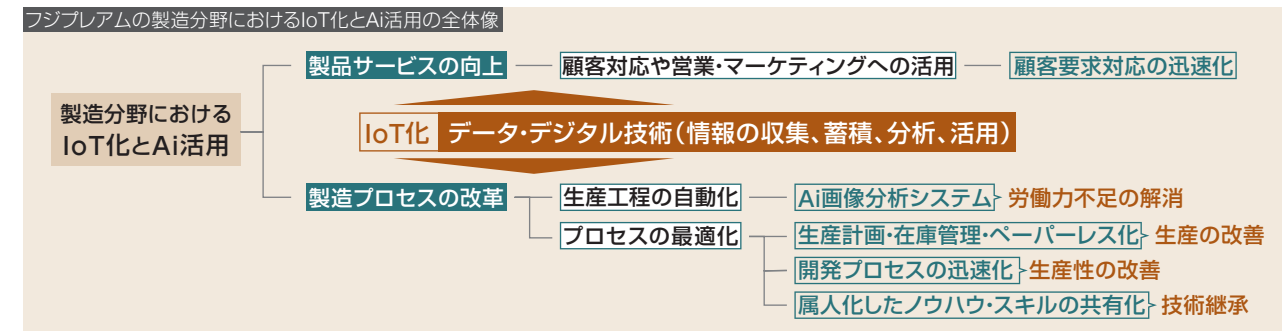
第1営業部 主任
角 大志

今後も付加価値を創造し続ける企業として。

製造業では今、統計分析などを活用したインフォマティクスの手法を使って、材料開発を高効率化する取り組みが広まっています。素材開発の高速化や多様化が進行していく中、フジプレアムでは、的確かつスピーディーにAiの活用を進めていくための施策として、マテリアルズ・インフォマティクスの開発に特化したスタートアップ企業との協業を進めているところです。

Aiの活用は、優れたシステムを導入すれば完成ではありません。データを解析するための最適な情報の整理や的確な判断には、「人」のスキルや経験は欠かせない要素となります。これから

も当社では人とAiの最適な関係性を考えながら、付加価値を創造し続ける企業として、引き続きIoT環境の構築を進めて参ります。



サステナビリティ推進委員会、経過報告

2021年10月にサステナビリティ推進委員会が発足し約1年が経過いたしました。

現在、各テーマごとに担当者、リーダーを選任し、2か月に1回のペースで定例会議を開催。責任を持って継続的に取り組みを進めるとともに、今年10月からは社内掲示欄、社内報などを使った社内広報・啓発活動も開始。全従業員への理解促進、意識浸透を促しています。

2022年5月9日には、持続的な企業価値向上と持続可能な社会の実現に向けて、サステナビリティ基本方針の策定及び重要課題（マテリアリティ）を特定いたしました。

これからも当社グループでは、持続可能でよりよい社会を目指すため、社員一人一人が意識を高め、目の前のことから少しずつ取り組みを進めて参ります。



重要課題(マテリアリティ)

地球環境への貢献



責任ある供給体制の構築



ステークホルダーとのパートナーシップ



魅力ある職場の実現



トピックス Topics

TOPICS 01 第40回定時株主総会を開催

第40回定時株主総会を下記の通り開催いたしました。
【日時】2022年6月28日(火) 10:00～
【会場】フジプレミアム 本社ビル4階 大会議室



TOPICS 02 日本オープンゴルフ選手権の 広告協賛を実施

2022年10月20日(木)～10月23日(日)三甲ゴルフ倶楽部で行われた日本オープンゴルフ選手権へ協賛を実施いたしました。



2022 6 June 7 July 8 August 9 September 10 October

TOPICS 03 光都ふるさとプロジェクトへの広告協賛を実施

弊社工場のあるたつの市新宮町の光都ふるさとプロジェクトへ2年ぶりに協賛を実施いたしました。年間を通じて様々なイベントに役立てられます。

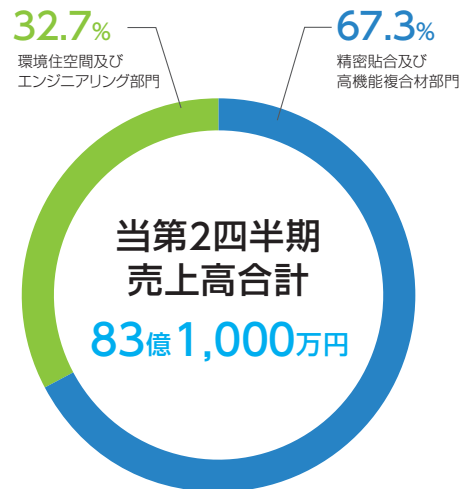


Segment Information

親会社株主に帰属する四半期純利益4億2,500万円確保

当第2四半期連結累計期間におけるわが国経済は、新型コロナウイルス感染症対策が進むことにより、段階的に経済活動が再開しております。一方、ウクライナ情勢の長期化による原材料価格の上昇、円安の進行等の要因による物価上昇懸念等、依然として予断を許さない状況が続いております。このような環境の中、当社グループの主力事業である精密貼合及び高機能複合材部門におきましては、自動車業界及びエレクトロニクス業界でのディスプレイ化、タッチパネル化ニーズを取り込み、当社の精密貼合技術を活用した加工ビジネスを拡大してまいりました。一方、環境住空間及びエンジニアリング部門におきましては、太陽光発電事業は引き続きOEM供給を中心とした生産を実施、エンジニアリング部門では、機械製造販売子会社のプレマテック株式会社との協業により経営基盤の強化を行っております。

この結果、当第2四半期連結累計期間における当社グループの連結業績は、売上高8,310百万円(前年同四半期比12.5%減)、営業利益560百万円(同149.2%増)、経常利益584百万円(同151.6%増)を計上し、親会社株主に帰属する四半期純利益は425百万円(同232.5%増)となりました。



精密貼合及び高機能複合材部門

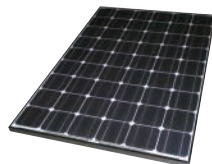


第41期 第2四半期売上高
55億8,800万円

国内外におけるディスプレイ・タッチパネル市場は、拡大基調となっております。その一方で、半導体あるいは各種部品の供給問題が拡大し、産業界全体に影響が広がっています。車載用途市場では、部品供給不足等の要因による完成車メーカーの生産の遅れが当社受注に影響する一方、自動車の電子化・ディスプレイ化が確実に進み、当社の商機は増加してきております。また、デジタル化の進行に伴い、これまでディスプレイ等が無縁であった業界からの引き合い等が増加していることを踏まえ、生産を高度化することで難易度の高い技術を求められる用途製品の受注・開発に取り組んでおります。

この結果、売上高5,588百万円(前年同四半期比29.3%減)、営業利益131百万円(同34.9%減)となりました。

環境住空間及びエンジニアリング部門



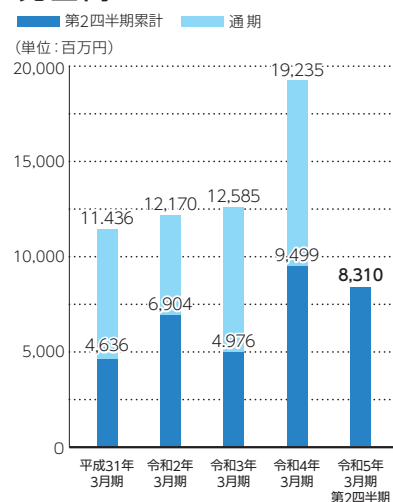
第41期 第2四半期売上高
27億2,100万円

太陽電池の国内市場は、国内制度の変更あるいは海外メーカーの台頭により、国内メーカーにとっては厳しい状況が続いております。そのため当社グループも、コスト削減を進めながら、OEM供給を主軸とし、中でも製品開発・用途開拓等の開発要素が大きいものに注力してまいりました。また、エンジニアリング部門においてはプレマテック株式会社での部品調達等の長納期化が起きていますが、半導体関連向け装置受注が順調に推移し好調を維持しております。メカトロニクス技術を活用した省人化あるいは省エネルギー化ビジネスにも引き続き注力しております。

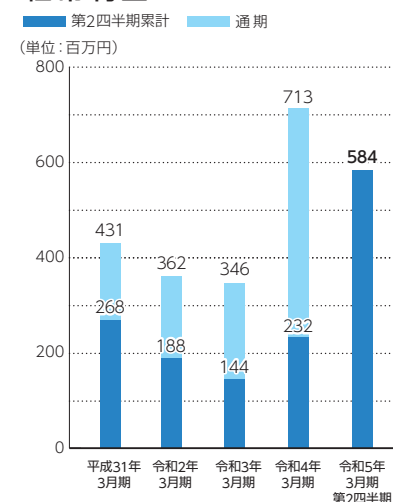
この結果、売上高2,721百万円(前年同四半期比70.7%増)、営業利益426百万円(同1,969.7%増)となりました。

Financial Highlight

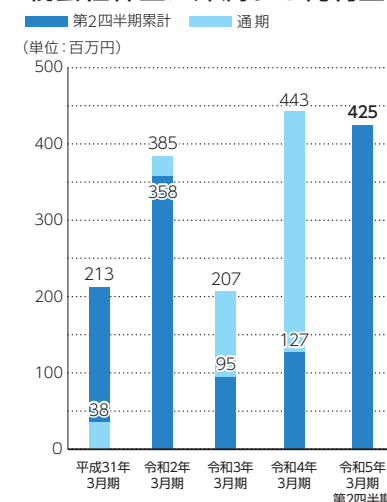
売上高



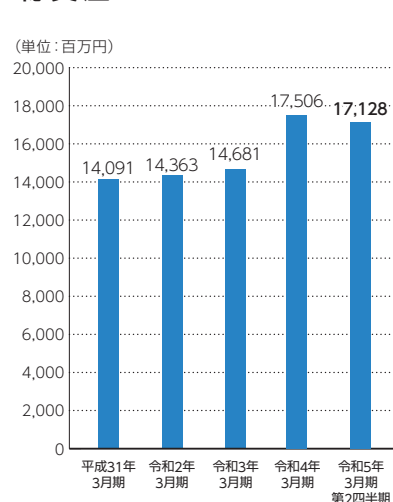
経常利益



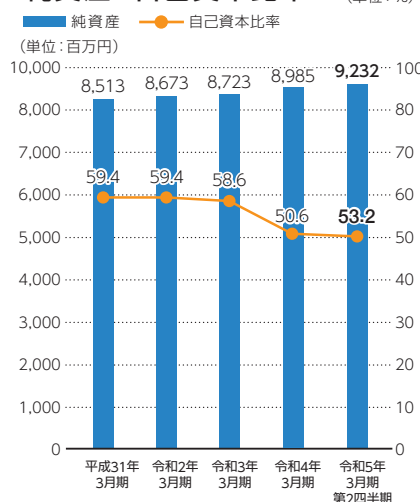
親会社株主に帰属する純利益



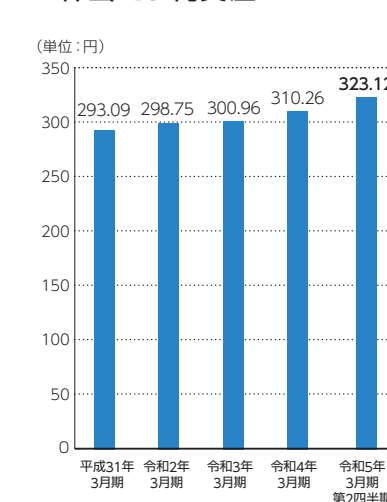
総資産



純資産・自己資本比率



一株当たり純資産



第2四半期 連結貸借対照表

(単位:千円)

科目	当第2四半期 連結会計期間末 (令和4年9月30日)	前連結会計 年度末 (令和4年3月31日)
流動資産	8,190,539	8,320,114
現金及び預金	3,334,411	3,526,502
受取手形、売掛金及び契約資産	3,850,525	4,025,865
商品及び製品	915	1,479
仕掛品	822,262	770,441
原材料及び貯蔵品	570,450	391,448
その他	53,239	45,452
貸倒引当金	△441,265	△441,075
固定資産	8,937,826	9,185,893
有形固定資産	7,807,963	8,036,258
無形固定資産	7,014	8,948
投資その他の資産	1,122,847	1,140,687
資産合計	17,128,365	17,506,008

(単位:千円)

科目	当第2四半期 連結会計期間末 (令和4年9月30日)	前連結会計 年度末 (令和4年3月31日)
流動負債	5,273,210	6,326,303
支払手形及び買掛金	1,761,925	1,977,341
短期借入金	2,510,000	2,640,000
1年内償還予定の社債	28,000	28,000
1年内返済予定の長期借入金	512,502	992,178
未払法人税等	171,615	168,808
賞与引当金	36,514	35,707
製品保証引当金	84,860	110,529
その他	167,793	373,738
固定負債	2,622,194	2,194,361
社債	374,000	388,000
長期借入金	2,067,890	1,622,570
退職給付に係る負債	43,715	43,096
その他	136,589	140,695
負債合計	7,895,404	8,520,665
純資産の部		
株主資本	9,109,625	8,856,007
資本金	2,000,007	2,000,007
資本剰余金	2,440,803	2,440,803
利益剰余金	5,532,744	5,279,126
自己株式	△863,930	△863,930
その他の包括利益累計額	2,357	9,497
非支配株主持分	120,977	119,838
純資産合計	9,232,960	8,985,343
負債純資産合計	17,128,365	17,506,008

第2四半期 連結損益計算書

(単位:千円)

科目	当第2四半期 連結累計期間 (令和4年4月1日から 令和4年9月30日まで)	前第2四半期 連結累計期間 (令和3年4月1日から 令和3年9月30日まで)
売上高	8,310,054	9,499,053
売上原価	7,160,468	8,700,400
売上総利益	1,149,586	798,652
販売費及び一般管理費	588,747	573,573
営業利益	560,839	225,078
営業外収益	34,531	15,801
営業外費用	10,499	8,461
経常利益	584,871	232,418
税金等調整前四半期純利益	584,871	232,418
法人税、住民税及び事業税	157,894	100,457
法人税等調整額	771	4,408
四半期純利益	426,206	127,552
非支配株主に帰属する四半期純利益又は 非支配株主に帰属する四半期純損失(△)	1,138	△286
親会社株主に帰属する 四半期純利益	425,067	127,838

第2四半期 連結包括利益計算書

(単位:千円)

科目	当第2四半期 連結累計期間 (令和4年4月1日から 令和4年9月30日まで)	前第2四半期 連結累計期間 (令和3年4月1日から 令和3年9月30日まで)
四半期純利益	426,206	127,552
その他の包括利益	△7,140	21,926
その他有価証券評価差額金	△7,140	21,926
四半期包括利益	419,065	149,478

連結キャッシュ・フロー計算書

(単位:千円)

科目	当第2四半期 連結累計期間 (令和4年4月1日から 令和4年9月30日まで)	前第2四半期 連結累計期間 (令和3年4月1日から 令和3年9月30日まで)
営業活動による キャッシュ・フロー	250,044	338,444
投資活動による キャッシュ・フロー	75,221	178,304
財務活動による キャッシュ・フロー	△350,820	△122,141
現金及び現金同等物に係る 換算差額	12,353	583
現金及び現金同等物の 増減額(△は減少)	△13,201	395,190
現金及び現金同等物の 期首残高	3,297,067	3,063,163
現金及び現金同等物の 四半期末残高	3,283,865	3,458,353

Profile

会社概要

(令和4年9月30日現在)

商号	フジプレミアム株式会社 Fujipream Corporation(英)
本社所在地	兵庫県姫路市飾西38番地1
設立	昭和57年4月14日
代表者	代表取締役社長 松本倫長
資本金	2,000百万円
事業内容	精密貼合及び高機能複合材関連事業 環境ビジネス関連事業 他
従業員数	272名(連結、臨時雇用を除く)
営業所及び工場	本社 姫路工場 播磨テクノポリス光都工場／研究所／PV工場 東京営業本部
連結対象となる子会社	フジプレ販売株式会社(設立:平成13年4月) プレマテック株式会社(設立:昭和37年6月)
主要取引銀行	三菱UFJ銀行／みずほ銀行／山陰合同銀行

取締役及び監査役

(令和4年9月30日現在)

代表取締役社長	松本 倫長
代表取締役専務	名村 信彦
取締役	木村 裕史(社外)
取締役	森田 晃史
常勤監査役	上田 豊
監査役	中川 康德(社外)
監査役	田島 宏一(社外)

株式の分布状況

(令和4年9月30日現在)

会社が発行する株式の総数	105,000,000株
発行済株式の総数	29,786,400株
株主数	6,795名

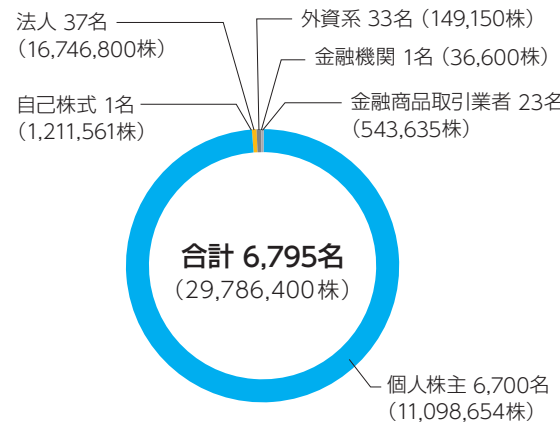
大株主の状況

(令和4年9月30日現在)

フォローウインド株式会社	12,092,700株
松本 倫長	2,441,400株
松本 庄藏	1,854,000株
東レ株式会社	1,560,000株
日亜化学工業株式会社	1,425,000株
フジプレミアム株式会社	1,211,561株
リンテック株式会社	936,000株
ジェイアンドエム株式会社	475,500株
藤田 和也	258,000株
津田 鉄也	230,000株

株式分布状況

(令和4年9月30日現在)



キーワード解説

keyword

メータークラスター パネル

vol.6

先端産業を支える
フジプレミアムの独自技術を
キーワードで解説するシリーズ



自動車運転席の正面にあり、
運転に必要な各種メーターを集合させたユニットパネルのこと。

自動車の運転に必要な不可欠な情報を表示してくれるメータークラスターパネル。

従来、主力であったアナログメーターが最近ではカラフルな液晶パネルに置き換わり、様々な情報をグラフィカルに表現してくれる車種も一般的となってきました。

今後、完全自動運転が実現するレベル5では、車内空間はよりデザイン性や快適性、エンタティメント性が求められるようになり、従来のメータークラスターパネルもディスプレイ化が一層進むことで大きく形を変えることが予想されます。

100年に一度の大転換期を迎えているモビリティ市場において曲面や異形に対応した加工技術へのニーズが高まっている今、フジプレミアムでは、独自の「精密貼合技術」をベースに様々な価値を創造していこうと考えています。

